

トレハ健康新聞



http://www.shobo.jp/

Jan. 2006

Winter

2006年(平成18年)1月31日11号
季刊・年4回発行
編集兼発行人/平澤良一
発行所/株式会社トレハクラブ
TEL:03-3437-3363
FAX:03-3437-3361
〒105-6131
東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
E-mail:info@trehaclub.co.jp
http://www.shobo.jp/
印刷/ミズカミ

ヒポクラテスの教え

医学の父が教えた木陰

ギリシアの空は蒼い。太陽の光を受け、海が明るい碧色に輝く。秋が爽やかな風を運んできているとき、日本からメールが届いた。健康新聞の件である。ちょうどタイミンクがびったりだ。今日訪れたところを紹介してみよう。

私は国際医学会で地中海に浮かぶコス島に滞在中。ここは「医学の父」のヒポクラテスが生まれた島だ。彼はさまざまな患者の身体を治し心を癒したという。本日立ち寄ったのは、「ヒポクラテスの木」。大木の太い幹が数本に分れ、枝が広がる。緑色で豊かに育った小枝と葉が、強い日差しを柔らかく受け止めてくれる。だから、この木陰でヒポクラテスが診察し、傍らで医学生が学ぶ最適の場となったのだろう。

温暖な気候で濃厚な心

さて、ここで考えてみたのが、気候と人間との関係である。地中海気候は、温暖で雨が少なく樹木が育ち、果物も取れる。マイルドな環境だからこそ、ゆったりと構え、ゆっくりと患者を診察できたのではあるまいか。患者も忍耐も英語でpatientと言うのも関係あるだろう。

逆に、コス島が赤道直下の熱帯雨林だったり、シベリアのような極寒の地域だったら、どうだろうか。人の心に余裕がなく、文化や学問はそれほど容易に発展していかないであろう。そ

ういえば、世界の文明も気候が温暖で水がある場所で開催したのは、ご存知のとおりである。

先輩から後輩へ伝える

ヒポクラテスは診察しながら弟子を教えた。彼の教えは後輩にへと受け継がれ、現在まで伝わってきたのである。

医学の教科書を紐解いてみよう。すると、数百年の歴史が凝集されて1ページにまとめられているのがわかる。また、著名な医学者が一生をかけて解明したことが、わずかに1行の説明になっているのだ。

現代はITの時代。あらゆる情報は数字やデータに置き換えられ、伝えられていくのだろうか。答えは否である。コンピュータがいくら有能とはいっても万能ではない。仕事とは人間から人間に継承されるもの。私たち医者も、師匠や先輩から多くを学んできた。

ファイアーマンも同様ではないだろうか。仕事の環境は、心地よく涼しい木陰ではなく、灼熱地獄という命にかかわるハードなものだ。厳しい条件下でも、先輩からいろいろな智慧を学び、後輩に伝えていきたいものである。



板東 浩氏

糖尿病専門医、ピアニスト、スピードスケーター、著書に「イラストと川柳で学ぶ糖尿病」など

からだに良い習慣、悪い習慣

医者いらず健康法